

いちばん美しい姿は、
30年後です。

山根は、自由発想。
飾らない和を
求めていく。

こんにちは。
さくらす展示場の児玉章宏です。
「山藤」の和室に足を踏み入れる
度に思うことがあります。それは、
木を組むことは、心を組むこと
なんだと。親子二代の大工たちが
呼吸を合わせて作った床の間。
黒光りした檜の框の縁、その微妙な
曲線に沿って白い北山杉の床柱が
馴染んでいます。悔しいけれど図面
に表せない美しさです。大工の腕に
は文化が宿っている。これほうちの
社長の言葉ですが、まさにその通り。
しかし何よりすごいのは、当たり前
前のように涼しい顔をして黙々と
作っていたことです。平安時代から
伝わる唐紙の襖も伝統の重さを
主張していません。意外なほど現代
的でポップな可愛さがあります。いい
和室ほど技を威張らず、懐が深い。
家族の歴史をまるごと受け入れ、
美しく刻んでくれる。自画自賛する
のは粋じゃないと棟梁に叱られ
そうですが、まずは和室の凛とした
雰囲気味わってみてください。

新しい暮らしのお話をしましょう。



想像を超える集合の美「山藤」
廿日市展示場 さくらす